

220615裁判報告集会 自力補修活動報告

(発表文字原稿)

1. ご来場の皆様ありがとうございます。
私は吉田寮補修特別委員会の〇〇です。
今日は、今年の3月末から6月上旬にかけて行った、管理棟の土壁補修について報告します。
2. 今回のコンテンツは以下の通りです。
まず、寮生による自力補修活動の意義、加えて今までに行ってきた自力補修活動の事例を紹介します。
次いで、最近行った管理棟の土壁修繕について報告します。
3. 現棟は伝統構法による木造建築です。その老朽化を防ぐためには日常的な小規模補修が不可欠です。例えば細かい雨漏りを修繕したり、割れたガラスを入れたり、などです。従来こうした小規模補修は、十分ではないとしても、寮自治会からの要請に大学当局が応じて、大学の予算により行われてきました。とはいえ、当局や業者に建物の維持管理をゆだねるのではなく、実際にそこを利用する寮生・寮外生で建物の状態をチェックし、自分たちでできる補修活動は自分たちの手で行ってきました。
ところが2018年9月の「退去期限」を過ぎると、大学当局はほぼ全ての現棟の小規模補修を拒否するようになりました。これは「当局の責任において吉田寮の補修を行う」という旨の確約に明確に違反しています。また当局は、2015年に現棟の建築的価値を認める確約を結び、2019年にも「現棟の歴史的経緯は尊重する」という見解を出しています。にもかかわらず、現棟の老朽化対策については一切対応を拒否するのは、言葉とは裏腹に、「このまま老朽化が進めば、寮生を追い出したり現棟を取り壊すいい口実になる」というのが当局の本音だと考えざるを得ません。
私たちは、一刻も早い現棟の大規模補修・改修を行うべく、話し合いの再開を求め続けています。しかし当局は徹底的に話し合いを拒み、そしてあらゆる小規模補修を拒んでいます。老朽化に歯止めをかけ、現棟の建築的価値を維持していくためには、寮自治会による自力補修はますます重要となっています。
4. 過去の自力補修の事例を紹介します。
雨漏りの予防としては、屋根瓦に乗る落ち葉が雨漏りを進行させるとのことで、箒で落ち葉を払ったり、落ち葉を発生させる原因である中庭の高木(こうぼく)を剪定したりしました。
また、瓦のひび割れやずれを固定する作業を行い雨漏りの修繕を行っています。
その他にも、シロアリによる被害の防止も行っています。
寮内の倒木や剪定後の木材は長期間放置するとシロアリが営巣し、ゆくゆくは現棟の木材へと進行していきます。
こういった事態を防ぐために、倒木の処理を行っています。
また既にシロアリによる食害を受けて普及してしまった木材を新しいものに交換するといった作業も行ってきました。
5. 以降は直近で補修特別委員会が行った現棟の土壁補修について報告します。
6. まず、土壁の内部構造について説明します。

土壁は竹小舞と呼ばれる竹で作った格子と3層の土壁で構成されています。

竹小舞に用いる竹には寮でとれた竹を利用しています。

荒壁は地震による振動に耐えるために必要な5cm程度の厚い土壁です。荒壁は土と藁を主原料としており、これを水と練り混ぜて作ります。

中塗りは荒壁より薄く作り、荒壁乾燥後の凸凹した壁面をなだらかにするものです。中塗りは土、藁に加えて砂を混ぜてつくります。

仕上げは、ものにより模様をつけたり、色を付けたり様々ですが、今回は漆喰で仕上げました。

柱間(はしらま)にこのような構造を設けることで、地震に見舞われた際のエネルギーを逃がしたり、湿度を調節する効果があります。

7. 作業工程は以下の通りで、乾燥期間を考えれば最短でも1か月半程度要する作業です。

今回は右に示す日程で作業を実施しました。4月以降の作業は、2022年度の新入寮生が積極的に参加してくれたこともあり、

毎回10人前後の寮生・寮外生で活動を行えました。

8. 竹小舞はこの先塗っていく土壁の下地になるもので、竹を麻縄で結び、格子状にしてかつての土壁の下地を再現します。

今回の補修箇所は竹小舞から補修が必要な箇所と不要な箇所が入り混じっていたので、不要な箇所の残存した竹小舞と新しく設置する竹小舞を接続しました。

また、竹は寮の中庭で採れたものを利用しています。

9. 荒壁は最も内側に位置する土壁です。

荒壁は、これから上塗りする壁と比べて厚く塗る必要があるため材料が多く、練り混ぜるだけでもかなりの体力を消費します。

土と藁と砂と水を舟(ふね)と呼ばれる容器で練り上げた土を竹小舞に塗り付けていきます。

10. 荒壁の乾燥には2-3週間ほど要します。

乾燥後の荒壁は、まだらに含まれた水分が抜けていって、ひび割れたり凹凸が生じたりしています。

それを補正し滑らかな土壁を作るために中塗りを行います。

中塗りは荒壁とほぼ材料は同じですが、砂の割合が荒壁土よりも多いです。

砂には乾燥による土壁の収縮を軽減する役割があり、土壁を平らに整えます。

平らな面を作ることでその後の漆喰塗りをきれいに仕上げることができます。

11. 中塗りから2-3週間ほどの乾燥期間を経て、最後に漆喰で仕上げを行います。

漆喰は水酸化カルシウムが主原料であり、これを壁に塗ることで、空気中の二酸化炭素と反応し、

炭酸カルシウムに変化します。炭酸カルシウムは不燃性の物質で、建築物の耐火性が高まります。

12. 今回は直近で補修特別委員会の活動として行った土壁補修について報告させていただきました。

私は漆喰塗り作業以外に参加しました。

その中だと、特に荒壁塗りが粘土を扱っているようで面白かったです。

その他各作業工程で様々な感想が得られました。

竹小舞であれば、縄を試行錯誤しながら結んでいくのが楽しかった、であるとか、荒壁は粘性が出るまで練り混ぜるのが大変だったが、塗る作業は楽しかった、中塗り

は、荒壁より砂の量が多く粘性が低く塗りにくかった、など作業の大変さを感じつつも楽しんで作業できたという感想を多く得られました。

工程に関わらず、「たくさんの人と協力して作業をするということ自体が楽しい」や「層によって壁土の配合が異なり感触が違うのが面白い」といった肯定的な感想が多かったです。

補修特別委員会としても大勢で同時並行的に協力できる補修イベントも今後も企画していきたいと考えています。

一方「背中や腰が痛いため小さな椅子が欲しい」といった意見もあり、作業環境の整備にも気を配っていかねばならないなと感じています。

13. 今後も補修特別委員会は寮の自力補修に取り組んでいきます。

委員会として補修を行っていきたい箇所としては、現在は屋根の修繕や床下の腐朽した木材の取り換えなどを考えています。

屋根については、雨漏りの原因になる落ち葉の払落しに始まり、瓦のひび割れや、自重でずれ落ちた瓦をもとの位置に戻すなどといった企画を実施していきたいと考えています。

14. 腐朽部材の取り換えについては、床板を支える木材が、蟻害や湿気など何らかの理由で腐朽していることが原因なので、そうした腐朽した木材を取り換え、さらに防蟻処理を行うことによって床板の沈み改善、と防虫を目指します。

以上です。ご清聴ありがとうございました。